

創立前の山口県の学校図書館

豊浦小学校（長府）には明治39年、深川小学校（長門）には明治43年に、学校図書館、児童文庫が設置された。

その後、大正から昭和にかけて、ほとんどの町村ではその中心校に学校図書館ができ、町村立図書館・文庫と併設して運営されていた。さらに第二次世界大戦後、学校図書館は児童・生徒の自由な学習活動を支えるという使命を担って学校教育に登場した。

昭和22年

徳山市の徳山小学校、秋芳町の八代小学校、厚狭町の厚狭中学校が図書館づくりに着手した。続いて、下松市の下松中学校、萩市の三見中学校、豊北町の栗野中学校、防府市の松崎小学校、山口市の平川小学校、白石小学校、和木村の和木小学校等が学校図書館を創設して、児童・生徒の読書指導に乗り出した。（以上、表記は旧市町村名による）

昭和23年

文部省発行の「学校図書館の手引き」に、学校図書館の意義と役割が提示された。それによると、学校図書館は新しい教育改革を達成するために「最も重要なものの一つである」とした上で、「学校図書館は自由な活動の手段を与える」「生徒の持つ問題に対して、いろいろな考え方や答えを提供する。（中略）かりに教室の学習において、教師から一つの問題に対してただ一つの解決しか与えられないとするならば、生徒は自分自身でものごとを考えることを学ばないであろう」と述べている。

昭和24年

八代小学校で学校図書館の研究大会が開催された。下関商業高等学校では、週1時間の「図書の間」を設けて、計画的に読書指導を展開していった。

昭和25年

図書の分類や目録づくりも多くの学校で軌道に乗り、宇部市の桃山中学校において、山口県の学校図書館研究大会が催された。

昭和26年

徳山小学校、桃山中学校、下松中学校、防府高等学校が県教育委員会の研究指定校となった。

昭和27年

下関商業高等学校では2人の専任司書を置いて読書会を開いたり、図書館広報紙を編集したりして活発な図書館活動を行っていた。

山口県SLAの創立

昭和30年6月12日、第1回山口県学校図書館研究大会（旧徳山市で開催）において、山口県学校図書館協議会（以下、山口県SLAと表記）の結成を採択。（大会はその後、毎年2日間の日程で開催されるようになった。）

初代会長：森山右一 氏（山口県立熊毛南高等学校校長）

会 員：規約第 2 条「本会は山口県内の小学校、中学校及び高等学校の学校図書館担当者並びに
本会の趣旨に賛同する者をもって構成する」と規定して、任意加入とする。

会 費：学校単位、個人加入とも 100 円。

事務局長：1 名 書 記：若干名

発足と同時に、全国学校図書館協議会に加入。山口県図書館協会に加入。山口県図書館協会と協力・
連携し、互いに役員を送ることになった。

「狂人会」の活動

山口県 S L A 結成の昭和 30 年頃から、自ら「狂人会」と称して学校図書館づくりに火の玉のよう
になって取り組んでいたグループがあった。このメンバーが山口県 S L A 初期の活動の実質的推進者
であり、その活動は次のようなものであった。

- ・昭和 30 年から始まった「全国青少年読書感想文コンクール」や、昭和 32 年から始まった「読書
感想画コンクール」に、地区予選・山口県審査会を経て、出品。
- ・昭和 32 年 7 月、「研究部」創設のための準備会を開いた。8 月に 100 名の部員で研究部の旗揚げ。
- ・昭和 32 年 8 月、会報「山口県学校図書館」を発行し、各学校に無料配布。（以後、毎年数回発行
し、昭和 41 年 41 号まで続いた。）
- ・昭和 33 年、「事業部」を作り、読書ノート作製に着手。8 月、小・中学校用読書ノートが完成。
- ・昭和 34 年 2 月、読書ノートを使用した児童・生徒の第 1 回読書ノートコンクール実施。読書ノ
ートの普及にともなって、応募数も増えていった。同コンクールは山口県独自のもので、読書指
導の充実に大いに役立った。
- ・吉田松陰没後百周年に当たる昭和 34 年、第 1 回中国地区学校図書館研究大会兼第 6 回県大会（萩
市）を開催。（この年から、県大会は、周防部と長門部で交互に開催することになった。県大会
の他に、東部ブロック、中部ブロック、西部ブロック、北部ブロックに分かれて研究大会が開催
された。）
- ・昭和 35 年、光市開催の県大会に司書分科会を設け、「司書部会」結成を決定する。昭和 36 年、
正式に司書部会が結成された。
- ・昭和 37 年、会報の編成組織を作ることになり、「会報編集部会」が正式に認められる。読書ノ
ートの事務処理を行う「事業部会」を正式発足。「高校部会」も認められた。

山口県 S L A の組織の改変

昭和 40 年代に入って小学校教育研究会（小教研）、中学校教育研究会（中教研）、高等学校教育研
究会（高教研）が創設され、その中にそれぞれ学校図書館部が設けられた。そのため、これまで小・
中・高一体となって組織されていた山口県 S L A との関係を確認することが緊急の課題となった。
一方で山口県 S L A は、結成以来逐次「研究部会」「司書部会」「会報編集部会」「事業部会」「高校部
会」を設置していたので、その取り扱いも規約の中に明示する必要があった。こうして、組織の改変
を余儀なくされた。

昭和 42 年、山口県 S L A の規約改正を行い、4 月 1 日より施行。主な改正点は次のとおり。

会 員：「各学校及び趣旨に賛同する個人会員」→「小・中・高教研の学校図書館部をもって編
成する」。

役員：副会長「3名」→「2名」、理事「各支部1名」→「各教研学校図書館部から各4名及び各部長」

理事の選出：「各支部会員の推薦または選挙」→「各教研学校図書館部によって選出」

事務局役員：「事務局長と書記若干名」→「事務局長と各教研学校図書館部選出の事務局職員」

会費：「学校及び個人会員の会費」→「各教研の学校図書館部の負担金」

会員が各教研学校図書館部の団体加入になったことにより、山口県の小・中・高すべての学校が間接的な会員になった。実質的には1校1名の教員が学校を代表することとなった。

第6回中国大会兼第16回山口県大会（防府市）

昭和44年防府市で、全国SLAの岩田齊氏を招いて開催。大会主題は「教育課程の展開に寄与する学校図書館と人間形成を目指す読書指導のあり方を研究する」。国語教育の倉沢栄吉氏が講師であった。

この大会後、小教研、中教研の予算の面から、県大会は隔年の開催を余儀なくされた。

司書部会の活動

司書部会は会員制、個人会費によって部会の運営と研修活動を行ってきた。年1回の総会並びに研究大会、実務研修会を毎年開催し、司書としての資質の向上に努めてきた。

昭和37年、全国SLA及び山口県SLAは152万人の署名を集めて、学校図書館法改正を国会議員に請願した。改正には至らなかったが、この運動の成果として、高等学校では昭和42年に、810名（後に18学級）以上の学校に、小・中学校では昭和44年に、30学級以上の小学校、24学級以上の中学校に、学校図書館充実のために事務職員を1名増員することが決まった。

この定数法の改正を受けて、山口県でも該当校に公費による事務職員が逐次配置された。定数法の規定に該当しない高等学校には、従来各学校が独自に配置していた司書を、私費雇用から公費による臨時主事にする措置がとられた。そのために賃金の改善はいくぶんできたが、臨時職員という身分から最大限2年間の雇用期間に限定されてしまった。

山口県SLAの組織の確立

昭和52年度、山口県SLA理事会で、次の4項目が承認された。

- ・開かれた山口県SLAであること
- ・研究する山口県SLAであること
- ・活動する山口県SLAであること
- ・連帯する山口県SLAであること

この方針のもと、以下の計画を進めることになった。

- ・山口県SLA会報の発行再開（昭和41年、会報「山口県学校図書館」は休刊となっていた。）
- ・研究員制度の確立：昭和52年度、山口県SLA事務局会議で、研究員制度の創設を決定し、理事会で承認された。昭和53年度、小・中・高等学校とも各支部（地区）で研究員を推薦し、8月に最初の研究員研修会が開かれた。昭和54年度から各校種別に、研究員が中心になって各支部（地区）の研究活動が軌道に乗り始めた。
- ・「読書のしおり」（高校生用のテキスト）の発行：学校図書館指導のガイダンス用として、また生徒の読書の手引きとして百選図書の紹介、読書感想文の書き方等の内容をもった簡便なテキスト。巻末に「読書ノート」を付けて、それを使用して読書ノートコンクールに応募できるようにした。

- ・「わたしの読書」（読書感想文集）の刊行：昭和 54 年、小・中・高等学校の県読書感想文コンクール優秀作品 48 点に、県読書感想画コンクール優秀作品約 40 点を挿絵として入れて刊行した。事業部の担当で、以後毎年刊行している。
 - ・各コンクールの充実発展
- また、全国 S L A からの情報をできるだけ各学校に提供するようにした。

請願運動

昭和 51 年度、山口県 S L A 会長、事務局長及び高教研学校図書館部会総務部長は、県教育委員会に対して請願書及び請願趣意書を提出して陳情を行った。その主旨は次のとおり。

- ・臨時主事の廃止と正規事務職員の配置
- ・司書教諭の発令
- ・図書費の増額
- ・学校図書館担当者の研修講座の開設
- ・推進指定校制度の設置
- ・私学に対する学校図書館振興策の策定

昭和 52 年度、山口県 S L A 会長が主として臨時主事の問題について陳情した。教育研究所に対して、事務局長が研修講座の開設について陳情した。

昭和 53 年度、高教研学校図書館部会理事長は、「学校図書館教育の振興について」の請願書を県教育委員会に提出し、主として次の 4 点について陳情した。

- ・教育行政当局の学校図書館及び図書館教育に対する認識について
- ・図書館事務職員の配置と臨時主事の廃止
- ・図書費の増額
- ・学校図書館利用と読書指導の重要性について

これらの請願運動によって、県教育委員会も問題点については理解を示したものの改善に向けての施策はほとんど示されなかった。

全国大会山口県開催に先立って

昭和 41 年、42 年、43 年と三度、全国 S L A から全国学校図書館研究大会の山口県開催を打診されたが、山口県 S L A は受諾しなかった。その後、昭和 52 年 2 月の各都道府県事務局長会議の折に全国 S L A 事務局長から、昭和 59 年に全国大会を山口県で開催してほしいと要請された。昭和 59 年は山口県 S L A 結成 30 周年にも当たり、山口県の学校図書館の振興も期待できるだろうなどの共通認識のもとに、昭和 59 年全国大会山口県開催を決定した。

昭和 59 年全国大会に先立って、小・中・高等学校の「学校図書館利用の手引き」を山口県独自のものとして作製することにした。

小教研：研究部長が中心となり、研究部、事業部の協力で、低・中・高学年用の 3 種類の利用の手引き「学校図書館」を編集。

中教研：昭和 57 年度、全中学校を対象に利用指導の実態調査を実施。その結果を分析し、利用の手引きの内容を検討。研究部長を中心に、研究部、事業部が協力して「わたしたちの学校図書館」を編集。

高教研：昭和 56 年度から山防地区が、研究テーマを「学校図書館利用の手引きの作製」に定めて研究に取りかかった。既刊「読書のしおり」を全面的に改訂し、その内容と編集方法について事業部に報告。事業部では、昭和 58 年度 7 名で編集委員会を組織して作製に取りかかった。県下各高等学校の資料を集めて検討するとともに、利用指導に関する

実態調査を行った。その分析の後、多くの教員の協力を得て、「わたしたちの学校図書館」を編集した。

昭和 54 年度、司書部会は「学校図書館運営細則」の研究に着手。途中、司書の臨時主事化にともなう人材の異動によって一時中断。昭和 56 年度、研究を再開。昭和 59 年 3 月、山口県独自の「図解学校図書館実務の手引き」が完成した。

山口県 S L A 結成 30 周年記念 第 24 回全国大会兼第 22 回山口県大会

全国大会への取り組みは、昭和 56 年度から始まったが、実質的に準備が進んだのは、昭和 57 年度からである。8 月伊勢市で開催された全国大会に、県教育委員会の援助もあって、15 名の視察団を派遣し、大会運営、研究体制、大会組織等について視察した。8 月末に視察の報告会を開き、会場地を山口市に決定した。

昭和 59 年 4 月、大会事務局を山口市立平川小学校に設置。岡藤孝山口県 S L A 会長と鳥飼勇志大会事務局長を中心に準備を進めていった。

本大会は山口市のちょうちん祭りに合わせて、昭和 59 年 8 月 7 日から 3 日間、山口市民会館を主会場に、19 会場、93 分科会に分かれて開催された。全国各地から 3263 名の参加があった。大会主題は「21 世紀の教育をひらく学校図書館」で、大会における研究の重点を、

- ①自ら学び自ら考える子どもを育てよう。
- ②子どもに真の読書の楽しさを発見させよう。
- ③親しみやすく魅力ある学校図書館をつくろう。

の 3 点に置き、セッション方式による多種多岐にわたる大会となった。特に、曾野綾子氏、松谷みよ子氏など著名な作家や児童文学者、山口県からも山口女子大学教授福田百合子氏、山口歴史民俗資料館館長内田伸氏、萩焼作家岡田仙舟氏など、魅力あふれる講師を迎えることができた。

全国大会は、参加者数と規模の大きさにおいて過去最大のものとなった。その成果として、子どもの自己教育力を育成するには、学校図書館の利用指導と図書館を活用する授業の創造が不可欠であると確認された。また、学習センターとしての学校図書館の重要性を再確認し、図書館の活性化が強く求められた。学校図書館の今日的課題と将来への展望が示され、教育県山口をアピールすることができた。

この大会は山口県 S L A 30 周年に当たる記念研究大会でもあった。県の学校図書館の歴史とその当時の実態をまとめた記念誌「山口県の学校図書館」も刊行された。

全国大会後の山口県 S L A

小・中・高等学校ともに全国大会に合わせて作製した「学校図書館利用の手引き」を使用した利用指導が活発に進められていった。

また、小教研では昭和 61 年度から 3 年間、学校図書館業務の基礎的な研修を行った。平成 2 年度からは「教科学習と学校図書館の利用」をテーマとして、学習指導の創意工夫に主眼を置いて研修を続けた。

中教研では毎年研究員の夏季研修会を開き、支部の研究活動の状況について情報交換を行うとともに、「わたしたちの学校図書館」の利用の仕方について協議した。

高教研では昭和 60 年度に利用指導 3 か年計画を立てたが、それに基づいて、夏季研修会には県下

の高等学校の図書館担当者が集い、利用指導について研修を行った。昭和 63 年度からは、初心者や臨時主事のために基礎講座の要素を取り入れた夏季研修会も開いた。

小・中・高教研はまた、歩調を合わせて「実践事例集」を編集していった。平成元年、小教研は「学習指導における学校図書館―利用と指導の実践事例集―」を編集。中教研は「利用指導―実践事例集―」として、「わたしたちの学校図書館」を活用した指導事例をまとめた。高教研は、各地区の研究員が中心となって、幅広い利用指導の事例を集めて、「学校図書館の利用指導―計画と実践の記録―」としてまとめた。

平成 4 年度に、小教研はこれまでの「学校図書館」の内容を、新しい指導要領に基づいた学習指導が体系的に行われるように全面的に改訂した。ファックス資料や指導案を載せ、表題も「楽しい学校図書館」と改めた。

昭和 61 年度、中教研は「わたしたちの学校図書館」を部分改訂した。

平成元年度、高教研は「わたしたちの学校図書館」を大幅に改訂した。

読書感想文全国コンクール 7 名入賞

昭和 62 年度第 33 回青少年読書感想文全国コンクールで、山口県の児童・生徒の、最優秀賞（内閣総理大臣賞）2 名を含む 7 名の作品が入賞した。全国 S L A の事務局では、「前代未聞の快挙だ。山口県はどんな指導をしているのか」と言う声も出た。

第 16 回中国大会兼第 23 回山口県大会（宇部市）

平成元年 10 月 27 日、28 日の 2 日間、宇部市で開催された。大会主題は「自ら求め学ぶ子どもを育てる学校図書館のあり方を研究する」。渡辺翁記念会館を全体会場にし、西宇部小学校、常磐中学校、宇部高等学校を校種別分科会場にして、中国 5 県から 1000 名を超える参加者を迎えた。特に、公開授業に力を入れ、多教科、多教室で授業を公開し、好評だった。

山口県 S L A 40 周年記念大会（山口市）

平成 6 年 10 月 28 日、山口県教育会館大ホールで開催。開会行事で、山口県 S L A 40 年の歩みを発表し、功労者の表彰、優良学校図書館表彰等が行われた。研究大会では、小・中・高等学校から各 1 名が研究発表を行った。記念講演では梅光女子学院学長の佐藤泰正氏に「現代に生きる漱石」を語っていただいた。

第 21 回中国大会兼第 26 回山口県大会（岩国市）

平成 11 年 10 月 29 日、30 日の 2 日間、岩国市で開催。大会主題は「豊かな心と未来に生きる力を育てる学校図書館の創造」。シンフォニア岩国を全体会場にし、小学校 5 会場、中学校 6 会場、高等学校 1 会場を校種別分科会場にして、参加者 617 名を迎えて開催。記念講演には高木敏子氏を迎え、「ガラスのうさぎと私」というテーマで講演していただいた。

各教研の刊行物

小教研は、平成元年度から 10 年間にわたって毎年各支部代表の研究員によって作っていた学校図

書館の利用と指導の実践事例集を、平成 11 年 10 月に 1 冊にまとめて、「学習指導における学校図書館―利用と指導実践事例集―」を刊行した。

中教研は、「わたしたちの学校図書館」を平成 11 年度に全面改訂を終え、12 年度刊行した。

高教研は、平成 6 年度に「高校生に薦める百選図書」を改訂して「わたしたちの学校図書館」に所収した。平成 11 年度には「第 4 回山口県高等学校図書館の実態」(10 年毎に実施する実態調査)をまとめた。また、「わたしたちの学校図書館」は平成 13 年度から改訂に着手し、平成 15 年度に新しく刊行した。

司書教諭部会の新設

平成 15 年度に 12 学級以上の全ての学校に司書教諭が発令されたことを契機に、これまでの司書部会を廃止して、新たに「司書教諭部会」を設けた。これまで司書部会が中心になって行っていた実務研修会を、平成 15 年度には司書教諭研修会として行った。

50 周年記念誌「山口県の学校図書館 Y S L A 50 年のあゆみ」

山口県 S L A 創立 50 周年を記念して、平成 16 年 12 月に刊行された。その内容として、山口県 S L A の歩みや年譜、平成 16 年 3 月現在の山口県学校図書館の実態調査、山口県 S L A に縁の方々からの寄稿等が掲載されている。また、この記念誌発刊に合わせて、平成 17 年 1 月 29 日、湯田温泉セントコア山口を会場に、功労者表彰式も行われた。これは、長年学校図書館活動に携わってこられたの方々 20 名を、その労をねぎらって表彰するものであり、心のこもった表彰式となった。

山口県 S L A のこの 10 年間のあゆみ

「わたしの読書」

昭和 54 年以降、事業部の担当で編集し、毎年発行してきた。現在は山口県 S L A 主催の三つのコンクール(読書感想文コンクール、読書感想画コンクール、読書ノートコンクール)の優秀作品を掲載している。(ただし、読書ノートコンクールは入賞者一覧のみ。)また、平成 22 年度版からは県読書感想画コンクール優秀作品をカラーで掲載している。

山口県司書教諭研修会

平成 15 年度の司書教諭の発令を契機にこれ以降は、小・中・高等学校の司書教諭及び学校図書館担当教職員を対象に、100 名前後が参加して例年 8 月上旬に 1 日研修を行っている。ただし、平成 21 年度は中国大会(下関大会)、平成 26 年度は県研究大会(光大会)のため実施せず。その内容は講話、校種別の分科会、事例発表や復伝、ワークショップ等。この 10 年間で招いた講師は村中李衣氏(児童文学作家)、堀川照代氏(図書館情報学)、黒木秀子氏(読書教育研究家)、横山眞佐子氏(こどもの広場代表)、平湯文夫氏(「図書館づくりと子どもの本の研究所」主宰)、森田盛行氏(全国 S L A 理事長)、五十嵐絹子氏(山形県読書活動推進プロジェクト・アドバイザー)、竹村和子氏(全国 S L A 常務理事)等である。

各教研の取り組み、刊行物等

小教研：研究部が中心になって研究員研修会を、原則として年1回、8月に1日研修として実施している。その内容として講演、実践発表、県立図書館の見学、情報交換等を行っている。最近ではブックトークやビブリオバトルの演習も行っている。毎年度末には「学習指導における学校図書館利用と指導実践事例集」を刊行している。これは主に、各支部研究員の所属校での取り組み内容を編集したものである。また、2年にわたる編集会議を経て平成21年11月に、「学校図書館利用の手引き 楽しい学校図書館」を刊行した。これは、平成4年度に作成された児童向けの冊子「楽しい学校図書館」を大幅に改訂して、教師用の利用手引書として発刊したもので、授業に役立つCD付きである。

中教研：平成21年の第26回中国大会（下関大会）に合わせて、「わたしたちの学校図書館」にある「読書ノート」を独立させ、「わたしの読書ノート」を作成。その主な改善点として、読書活動だけでなく、学習の場でも活用できるように内容や形式を工夫した。また、県内各支部・各中学校の実践事例を集め、「学校図書館実践事例集」を作成。平成26年度の取り組みとして5月24日、県立美術館講座室で読書感想画指導者講習会を開催。これは、西日本読書感想画コンクールで毎年成果を上げている美術教員を講師として県内の美術科の先生を対象に行ったものである。「わたしの読書ノート」は5年前の刊行内容に、「読みたい本のリスト」のページを追加し、「先生たちがすすめる本」に各教科担当教員が薦める本を新たに収録。また、各支部研究員の協力を得、2年かけて県内各支部・各中学校の実践事例を集めたものとして「学校図書館実践事例集」を作成した。県大会（光大会）時に配付する予定である。

高教研：毎年9月下旬に、「高教研学校図書館部会総会・研究大会」を実施している。また、研究部が中心になって、研究成果誌と研究調査誌を交互に隔年で発行している。平成21年度には10年に1回の学校図書館悉皆調査を県内のすべての高校で実施し、調査誌としてまとめた。「学校図書館に係る要望書」を、高教研学校図書館部会理事長名で県教育長宛に毎年提出してきた。その度に回答も得てきているが、特に学校図書館の「人」の問題については現状を改善するまでに至っていない。「わたしたちの学校図書館」（生徒用テキスト）について、学校図書館を取り巻く状況も大きく変化したこともあり、22年度から改編作業に取り組み、平成25年度改訂した。これまでと大きく変わったのが、「百選図書」「資料の検索機能の利用」。「読書ノート」に加えて、「読書記録」や「読書貯金」の項目も設けている。

第26回中国大会兼第28回山口県大会（下関市）

平成21年11月5、6日、下関市で開催。大会主題は「未来に夢つなぐ学校図書館の創造～子どもたちの多様なニーズに応えるために～」。初日は校種別に公開授業と研究協議会、2日目は「海峡メッセ下関」を会場に、分科会や全体会を行った。記念講演は映画監督の佐々部清氏により、「夢中になれることに感謝」と題して行われた。参加人数は449名。

第29回山口県大会（光市）60周年記念大会

山口県学校図書館研究大会は、昭和30年の第1回から昭和44年の第16回まで毎年度開催されていた。しかし、それ以降は2年から5年おきに開催されるようになった。また、中国大会が10年毎に県内で実施される関係で、県大会はその中間に開催することとなった。

第29回山口県大会は平成26年11月20日、光市で開催する。大会主題は「学びを広げ 豊かな心をはぐくむ 学校図書館」。はじめに島田小学校、島田中学校で公開授業、高等学校では高教研学校図

書館部会総会を実施。その後、光市民ホールで開会行事、研究発表、講演が行われる。講師に山根基世氏を招き、「子どものことばを育てるには」と題して講演を行っていただく。

以上、『山口県の学校図書館 YSLA50年のあゆみ』掲載の「山口県学校図書館協議会の歩み」を参考とし、新たに10年間のあゆみを追加した。

(平成26年10月20日)